

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成29年度 第12号
		平成30年 3月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数3月1日現在595名



## 共生する社会の実現に向けて（特別支援教育）

校長 可知 良之

平成29年度も残すところあと僅かとなりました。「終わりよければすべてよし」学年末の総仕上げをしっかりと行うべく最後の追い込みに力が入ります。一方では着々と来年度の準備を進めているところです。平成30年度には新たな取組として本校も市内で4番目のコミュニティースクールになります。地域と一体となった新しい学校づくりの第1歩です。そして、もう一つ大きな取組として、特別支援学級が新設されます。特別支援学級は**特別支援教育**の要となるもので、現在志木市内では4つの小学校と3つの中学校で設置されています。本校は市内小学校5番目の特別支援学級設置校となります。

特別支援学級は、特別なニーズ（日本語では支援と訳しています）を必要とする児童生徒に対して一人一人の障害に応じた個別の教育計画を立てて指導に当たるスペシャル（特別）な学級のことです。通常の学級は全員が一律の教育指導計画に基づいて一斉に指導していくのに対して、特別支援学級は学習の進み方や内容についても一人一人に合わせたオーダーメイドの計画で学習を進めていきます。1学級の人数も少なく、最大でも8人までと法律で定められています。担任は教員免許状に加えて特別支援教育に関わる免許状をもった教員が当たりますので、より専門性の高い学習が行われます。

平成24年の文部科学省の調査「通常の学級に在籍する**発達障害**の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒が全体の**約6.5%**もいることが分かりました。当時大きく報道されましたので、私たち教育関係者には衝

撃が走りました。学級の中の6.5%となると40人学級では2.6人になります。本校規模の学校ですと学校全体で40人ほどのお子さんが、**著しく学習や生活に困難を感じている**と推測されます。軽度発達障害にも様々なタイプがあり、対応の仕方も異なるといいます。しかし、適切な対応を取りさえすれば、生活や学習の困難さを解消し、よりよく生きていくことができます。世界で活躍している有名人の中には自分がADHD（注意欠陥多動性障害）やADD（注意欠陥障害）であることを公にしている方がたくさんいます。パリス・ヒルトン（ADD）ウィル・スミス（ADHD）ブリトニー・スピアーズ（ADHD）等々。日本人では栗原類さんがNHK番組「あさイチ」でADDであることを告白して話題になりました。アメリカに住んでいた幼少期に診断を受けて、**できないこととできること**を意識して、前向きになれたそうです。発達障害であっても、きちんとした対応をして周囲の理解や支援を受けながら前向きに取り組んでいけば道は開けていくことを訴えていると思います。平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「**障害者差別解消法**」）が施行されました。全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら**共生する社会**の実現に向けて、障害を理由とする差別の解消を推進することが今求められている、その一環として次年度本校でも本格的に特別支援教育を進めていきたいと考えています。

参考 文部科学省ホームページ  
内閣府ホームページ

